



新築トイレの木造工事を手掛けた宮之城高等技術専門校の訓練生

北薩公園トイレ 宮之城高技専請け負い  
訓練生15人が公共工事

「木のぬくもり感じて」

宮之城高等技術専門校の建築学科2年生15人が、県の公共事業「北薩公園北エントランストイレ新築工事」に取り組み、木工事部分完成させた。学生らが墨を付け、手刻みした木材を組み上げた作品だけに、同校は「木のぬくもりを感じてほしい」とPRしている。

同校によれば、専門校による「宮之城高等技術専門校が本事業全般を担当し、同校では約3年程度の経験を持つ格天井を組んだ。永野金山(同町)の回廊ト、札を行い、町内の工務店が落イレの木造工事担当に次ぎる。4日に見学した南さつま市出身の内野直輝さん(21)は「仲間という仕事でできた。ついでと受領。指導してほしい」と受領。指導した同校の上村大輔(21)は「現場で実践の訓練ができた。就職も決まっております。工になることを歓迎します。県は北薩公園のテーマゾーンを整備中でトイレの使用が可能になるのは年度の予定。(天塚政志)

訓練生は6歳が中心で、設計事務所の図面をもとに昨年9月から校内で木材加工。10月末から現場入りし、平日午前9時から午後4時まで、各業者とともに工事に励んできた。

本工事は昨年12月初旬に、全体工事は1月末に完成。木造平屋建て約200平方メートル、認定がこま材。Y県産材を使用、多目的トイレには神社に使用される格天井を組んだ。高級感のある水・柱も並ぶ。出身の内野直輝さん(21)は「仲間という仕事でできた。ついでと受領。指導してほしい」と受領。指導した同校の上村大輔(21)は「現場で実践の訓練ができた。就職も決まっております。工になることを歓迎します。県は北薩公園のテーマゾーンを整備中でトイレの使用が可能になるのは年度の予定。(天塚政志)」

南日本新聞記事



上棟式を迎えて記念写真に納まる生徒ら - さつま町の現地で

宮之城高等技術専門校 上棟式では清めの儀式、建築学科2年生の15人が制作しているトイレの製作しているトイレの上棟式が5日、さつま町の北薩公園で行われた。北薩公園北エントランストイレ新築工事(宮之城高等技術専門校)において、大工事務のみならず、現場事務所では安全教育を実施したほか、作業現場では作業員たちから手刻み加工等の作業に取り組んだ。

薩摩川内市の大工に内定が決まっている瀧田(とみ)さんは「男性に比べて力はないけど、みんなが協力してつくり上げるのがいいな」と話した。将来、女性の大工が増えるきっかけになりたいと抱負を語った。

同校訓練生1課の上村大輔(21)は「現場を通じて、建築業界の雰囲気にも少しは慣れた。この経験を生かして、新しい現場で生かしたい」と期待を寄せた。

宮之城高等技術専門校  
生徒らが盛大に上棟式  
鹿児島建設新聞記事



工事名/北薩公園北エントランストイレ新築工事

■Data  
発注者/鹿児島県北薩地域振興局長  
設計者/アーキワーク1 経営コンサルタント共同企業体  
監理者/北薩地域振興局建設部土木建築課建築係  
施工者/株式会社 薩摩工務店  
宮之城高等技術専門校 建築学科10期生  
場 所/薩摩郡さつま町  
構 造/木造平屋建て  
面 積/31.73㎡  
木材使用量/9.16㎡ (認定がこま材 7.34㎡)

■Schedule  
工 期/平成27年8月31日 ~ 平成27年12月17日

